

平成31年度(2019年度)「SOSの出し方に関する教育」研究指定校  
事業に係る研究指定校事業研究報告書(中間)

1 研究テーマ及び設定理由

(1) 研究テーマ「リーダーシップ教育を柱とした援助希求力の育成」

(2) 設定理由

ア 現状

- ①創立137周年の伝統校であり、優秀な生徒が多く入学する。
- ②地域や保護者の学校への関心が高く、同窓会等の支援も手厚い。
- ③文武両道を目指し日々教育活動を展開している。
- ④社会におけるグローバルリーダーの育成を期し、5年間のSGH指定を受け研究を行い、Super Global Research(生徒課題研究)、英語におけるディベートを中心としたSuper Global Communicationなど独自の教育資産がある。

イ 課題

- ①学校不適応の生徒が一定数おり、主な原因として次のようなものがあげられる。
  - a 学習についていけない。課題の未提出が見られる。
  - b 完璧を求めるあまり自分を許せない。
  - c 入学後目的を見失ってしまった。
  - d 部活動等の人間関係がうまくいかない。
- ②主体的・協働的・深い学びの課程を意識した授業改革が十分でない。
  - a 受験対策で濃密な授業内容になり、協働的な場面を生み出しづらい。
  - b 個々での取り組み事例はあるが、単発的である。
- ③生徒の悩みを受け止める教職員と保護者との認識にずれが生じる場合がある。

2 研究の目標と仮説

(1) 目標

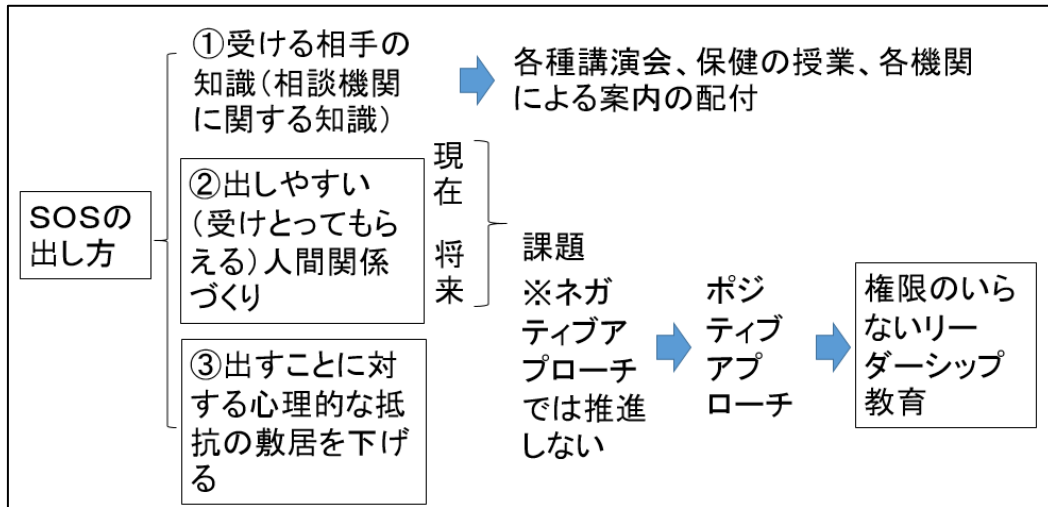
「リーダーシップ教育を柱とし、カリキュラム・マネジメントを行うことにより、生徒が自己肯定感を高め、互いをかけがえのない個人として尊重しあい、集団の目標を達成する取組のなかで、自分自身の強みや弱み(悩み)を掘り下げ、支援行動や援助希求行動を選択できる人材の育成」を目標とする。

※「リーダーシップ教育」とは、権限を持たない人でも発揮できるリーダーシップ

(2) 研究の構想

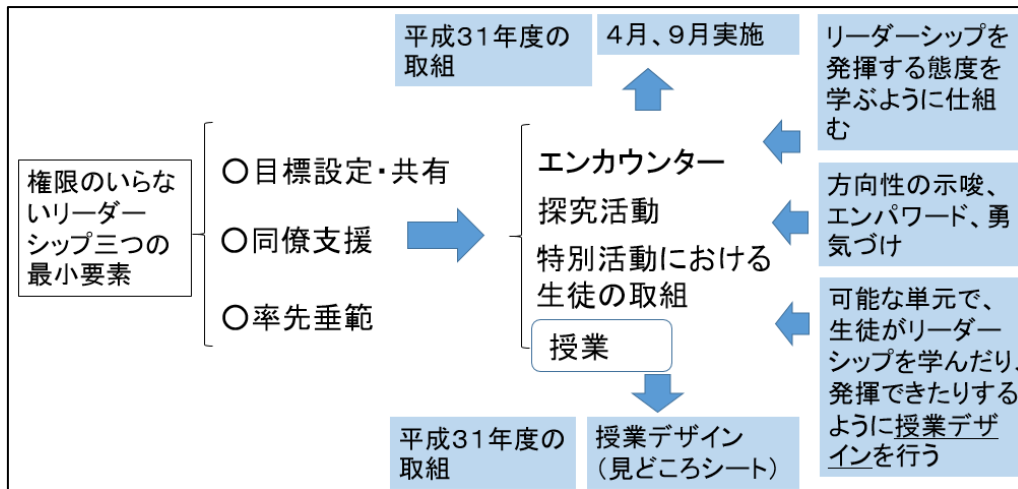
①SOSの出し方と権限のいらないリーダーシップ教育の関連

次の図に示すように、SOSの出し方の必要な要素のうち、人間関係づくりや生徒の心理的な面の成長を促すことを主として、ポジティブアプローチで推進するため、リーダーでなくても学習できるリーダーシップのフレームに着目した。



②権限のいらないリーダーシップの基本要素とカリキュラムへの工夫について

このフレームの要素は次の図に示すように、3つの最小要素からなる。最小要素は、「率先垂範（自分から動き、他者の規範となること）」「同僚支援・環境整備（個人やチーム全体が動きやすくなるように環境を整えること）」「目標設定・共有（チームのビジョンや目標を作り理解してもらうこと）」である。これらの最小要素を、エンカウンターや探究活動、授業などのあらゆる学習活動の中に織り込むことが、主な取組である。



(3) 仮説

1年生を対象としてリーダーシップ教育を各教科・特別活動で取り組み、生徒が主体的・協働的・深い学びを意識した活動を行うことで、自己理解や他者理解を深め自己肯定感を高め、自分をかけがえのない個人として尊重するとともに支援行動や援助希求行動を選択することができる。

(4) 評価方法

自己肯定感アンケート、授業評価、自己評価をもとに年度末の学校評議員会で評価を受ける。

3 研究内容

(1) 生徒の自己肯定感の調査

生徒の自己肯定感の在り方と変容を見るためにアンケートを実施した。対象生徒は

1年生412名である。実施は、4月の新入生宿泊研修時に1回目を、9月のLHRで2回目を、2月末のLHRで3回目を実施した。質問項目は10項目、それぞれを4点満点で集計した。結果は集約し当該学年に配付した。前回と比較し点数が大きく減少した生徒に対しては、詳細な状況把握と心理的ケアを目的として担任による個人面談を行った。

## (2) 研修・講演会の実施

生徒や職員の「リーダーシップ教育」についての理解と意識を深めるために研修及び講演会を行った。

### ア 職員研修

#### ① スクールカウンセラーによる講話（職員研修）（6月）

「生徒への理解をより深めるために ～ ‘気づき’のポイントについて～」

講師 臨床心理士 高木 ひろみ 先生（スクールカウンセラー）

#### ② 研究の理論的背景について（8月）

「権限によらないリーダーシップで発するSOS」

講師 株式会社イノベスト代表取締役 松岡 洋佑 氏

#### ③ カリキュラム・マネジメントの主体について（8月）

「カリキュラムマネジメント」 ファシリテータ 主幹教諭

#### ④ 感情のコントロールについて（11月）

「アンガーマネジメント」 講師 社会保険労務士 川内 恵里氏

### イ 講演会

#### ① 主体的な在り方について（7月）

進路講演会

「年中夢求 ～24時間をデザインする～」 講師 宇城市教育長 平岡 和徳 氏

#### ② 適切なSOSの出し方について（7月）

1年生性教育講演会

「デートDVって何？」 講師 熊本県人権擁護委員会 男女共同参画委員

## (3) エンカウンターを通したリーダーシップ教育の実践

1年生を対象に新入生宿泊研修（4月）と9月にエンカウンターを実施した。新入生宿泊研修時に実施したのは「新聞タワー」である。5～6人のグループで協力してできるだけ高い新聞タワーを作るものである。協働作業を通して、仲間との協働性を身に付け、集団への貢献を考える力、他者と協力して課題解決へ向かう力の育成を目的とした。

9月に実施したのは「漢字ゲーム」（質問によりリーダーシップを発揮する）である。質問により、相手が思い描いている漢字を当てるゲームである。自己理解・他者理解を深め、他者と協力して課題解決に向かう力の育成を目的とした。これは、8月下旬に松岡氏の職員研修で提示されたものを活用した。

実施に際しては、スクールカウンセラーと、事前の打合せを行い内容を決定した。また、2学期はスクールカウンセラーがエンカウンターを実施している各教室を見学し、1クラスについて最後のまとめを行った。

## (4) 授業を通したリーダーシップ教育の実践

### ア リーダーシップ授業デザインシートの開発

1学期の校内公開授業週間に、教育相談部の竹原亜紀教諭が「コミュニケーション英

語Ⅰ」の公開授業を実施した。課題として取り上げたことは、『グループの中で自分の役割を見出し、全体へ貢献する態度を育む』である。生徒の個性に応じて、それぞれが周囲への配慮を行いながら、自信を持って自分の意見を主張することのできる雰囲気を生徒達が自ら作り出すことができるようにすることを目標にして授業を実施した。この際、授業におけるリーダーシップ教育の授業デザインを提示するために、必要な情報を精査し、授業の見どころを記載するデザインシートを開発した。

#### イ 全教科によるリーダーシップ教育の実践

1学期は1教科1名のみでの公開授業であったので、2学期には指導者と教科を拡大し、8教科（9名で）「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業の公開授業を実施した。担当者は、1学期に開発した授業デザインシートを作成しながら、目的を教科の内容に落とし込むなどの工夫を行った。

特に家庭科では、授業の中で生徒へのポジティブフィードバックが図られるように、「家庭基礎」の保育分野のまとめとして、「これからの保育環境 ～グループ活動でリーダーシップを育む～」の内容でグループワークを行った。課題として取り上げたことは『個人や社会の一員として課題解決の方法を主体的に考える』である。生徒達には他人の意見を否定せず意見が出やすい雰囲気を作ること、それぞれが自分のできる部分で役割を果たすこと、最後の振り返りは良かったことを中心に行うように促した。



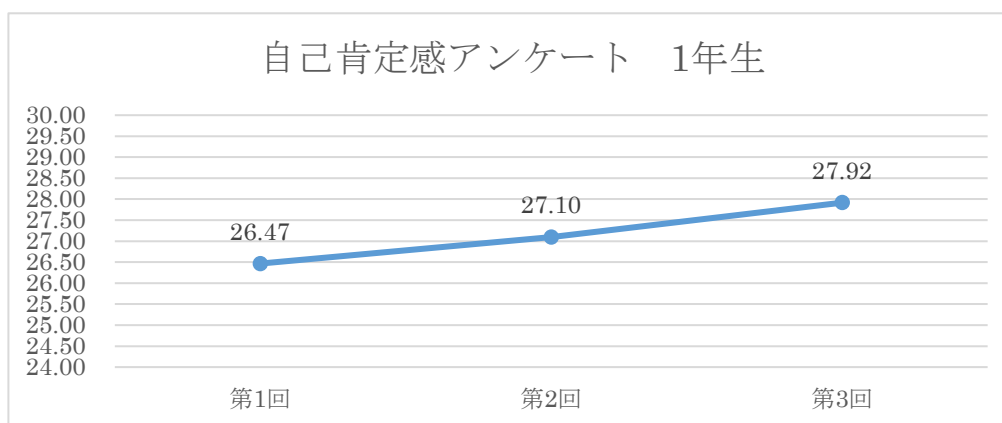
（写真）各教科による実践の様子

## 4 結果

### （1）成果

#### ア 自己肯定感について

3回のアンケート結果によると、1年生の自己肯定感は、回を追うごとに増加している。30点以上（高い値）の数も（第1回目：22.8%→第2回目：27.1%→第3回目：34.0%）増加している。その中で極端に低下した生徒もおり、該当生徒は担任との個別面談を実施した。 ※数値は平均値



## イ 生徒による感想

宿泊研修での「新聞タワー」では生徒の様子や感想から、協働作業を通して話し、お互いを知り合い、仲間作りを進めることができたことがわかった。特に、入学して間もない時期でクラス間の親交が深まっていない時期であったことから、クラス間の交流のきっかけにもなった。

2学期の「漢字ゲーム」では、生徒達は、「閉じた質問」「開いた質問」について学び、答えやすい質問の仕方を考えることができた。また、質問の口火を切ることの大切さ、たくさん意見を出す姿勢や質問しやすい雰囲気を作ることの重要性などを学んだ。

### 【新聞タワーの生徒感想】

- 協力してできた。誰も否定する人がいなかった。人任せにすることがなくてよかった。
- 初めて話す人とでも、何か目的があれば会話が生まれ、その中で目標に達するまでにすることは、とても楽しいということがわかりました。
- 一人では思い浮かばないことが集まることでアイデアがどんどん浮かんできた。必死に知恵を集めることができ協力は人数以上のことができると学んだ。

### 【漢字ゲームの生徒感想】

- 最初に手を挙げ発表する人がいるとグループワークがとてもうまくいくことがわかった。最初に発言してくれると「自分も！自分も！」とどんどん手が上がりチームの士気が向上することができた。
- ヒントを出した時にみんなが意見をたくさん出す姿勢からチャレンジすることの大切さを感じました。

## ウ 公開授業参観者による感想

11月11日に、公開授業を実施し、県下で31名の参加者があった。8教科(9名)での実施だったが、多くの参加者は複数の教科の授業を見学していた。参加者からは、いずれの教科の公開授業も、『否定的な意見や態度がない』『生徒が積極的に参加している』『教室全体の雰囲気作りがうまくいっている』という意見が出された。1年間リーダーシップ教育を中心に授業展開を考えた家庭科で、2月に生徒に実施したアンケートでは、「担当の作業を率先することができた(率先垂範)」(平均4.7)「他の班員と対話して作業を行った(同僚支援)」(平均4.7)の2項目は、高い値を示し、生徒達に率先垂範や同僚支援の態度が身についたと考えることができる。

※アンケート対象：1年生6クラス(240名)(得点は5点満点)

## エ 授業評価

1学期末と2学期末に実施する生徒の授業アンケートについて、主体的な学びを推進する観点などから、教務部で項目の改訂を行った。

回答は4件法で、4 そう思う、3 どちらかというと思う、2 どちらかというと思わない、1 そう思わない から選択する。

B あなたは授業内容に触発され、更に学習しようとする意欲が高まりましたか。

4の割合	1学期	2学期	2学期—1学期
普通教科	37.3%	41.7%	+4.4%

D 先生は、発表や質問、グループ活動や意見交換などの活動場面を設けていますか。

4の割合	1学期	2学期	2学期—1学期
普通教科	54.0%	57.6%	+3.6%
実技教科	41.8%	52.8%	+11.0%

## 5 成果と課題

### (1) 成果

カリキュラム・マネジメントを行い、講話や授業、特別活動など学校生活の多くの場面で生徒に「リーダーシップ教育」を実施することができた。特に授業では、多くの教科で主体的・協働的・深い学びを意識した活動に取り組むことができたことは成果としてあげられる。

### (2) 課題

カリキュラム・マネジメントの深化を進める取組の評価として、ルーブリックの完成と一般化が求められる。

## 6 次年度の事業計画

- (1) 自己肯定感のアンケートの継続実施と活用
- (2) カリキュラム・マネジメント
- (3) 各教科でのリーダーシップ教育の取組
- (4) 1, 2学年でのエンカウターの実施
- (5) 2年生の活躍の場面設定（1年生の活動で主導的な立場を取れる場面）
- (6) リーダーシップ教育に繋がる講演会等の実施
- (7) ルーブリックの作成と評価の実施

## 資料

- (1) SOSの出し方に関する事業実施状況
- (2) 自己効力感アンケート及び結果
  - ア アンケート
  - イ 結果
- (3) エンカウンター指導案1「新聞タワー」
  - ア ワークシート
  - イ 生徒感想
- (4) エンカウンター指導案2「漢字ゲーム」
  - ア ワークシート
  - イ 生徒感想
- (5) 授業デザインシート
  - ア コミュニケーション英語Ⅰ
  - イ 家庭科
  - ウ 情報
  - エ 音楽Ⅰ
  - オ 数学
  - カ 物理
  - キ 物理
  - ク 英語表現Ⅰ
  - ケ 国語総合(古典)
  - コ 保健体育(体育)
- (6) 公開授業(家庭科)
  - ア 指導案
  - イ アンケート結果
  - ウ 生徒感想
- (7) 公開授業参観者によるアンケート集計

## (1) SOSの出し方に関する事業実施状況

月	関連行事等	SOSとのつながり
4	1 職員会議	・SOS具体案の周知
	1 宿泊研修エンカウンター資料	・ワークショップ案の作成
	5 県通知	・教安第9号
	12～14 新入生学習合宿	・アンケート1 ・ワークショップ実施(新聞タワー)
5	15～26 面談週間	・学校への適応
	16主幹課からの指導助言	・計画書の作成、方向性等
6	17 同心会総会	・保護者への事業の周知 ・保護者研修(SC)
	13 公開授業	・コ英語I・5限・1・6・竹原
	14 人権教育講話	・「e-ネット安心講座」インターネットと人権 講師 兼松コミュニケーションズ株式会社 黒川 智章 様 SNSの危険性とSOSの出し方
		**1年から高校生県議会参加希望者4人(前年度0)
	21 いじめ人権アンケート	
	25 生徒理解職員研修	・職員研修・SC高木先生
7	**28運動部活動リーダー研修	・キャプテン、希望者 「リーダーシップ」
	3 1年進路講演会	・「年中夢求 ～24時間をデザインする～」 宇城市教育長 平岡和徳氏
	8 生徒会立会演説会	**1年生から立候補者10人(前年度6人)
	10いじめ防止対策委員会①	・職員・保護者研修(SC 疋田先生)
	11 学校評議員会	・事業の説明 ・公開授業2教科目 主体的協働的な学びの授業 ・国語・2・8・益田
8	12 性教育講演会	・「デートDVって何？」 熊本県人権擁護委員会 男女共同参画委員 適切な人間関係とSOSの出し方
	1～9校外研修(1学年)	・北九州学術研究都市1～3(23人)5～7(24人) ・熊本大学1～2(41人)8～9(46人) ・JICA6～8(40人)
	23 職員研修	・権限によらないリーダーシップで発信するSOS 講師 株式会社イノベスト代表取締役 松岡洋佑氏
9	29 職員研修	・カリキュラム・マネジメント
	6・7 文化祭	・保健委員会「ストレス対処について」「アンケート調査」発表 ・JRC部、献血の取組 54人
	面談週間	・進路、学習上の悩みについて ・アンケート2(SOS)
	13SOS公開授業の派遣(依頼)	・南稜高校(10月23日)
	18中間報告	・運営委員会でこれまでの取組、今後の方向性について
	201学年LHR	・エンカウンター(漢字ゲーム・SC見学、助言)
	24主幹課からの指導助言	・公開授業の方向性などについて
10	3 生徒理解職員研修	・職員への中間報告
	上旬	・公開授業案内発送
	23他校公開授業の参加	・南稜高校(職員2名参加)
11	11公開授業(済々元気DAYS)	・8教科目(9名)公開授業 他校より参加31名
	13学校保健委員会	・保健委員会「ストレス対処等」
	26人権教育職員研修	・アンガーマネジメント 講師 社会士事務所 eRia・ハート 社会保険労務士 川内 恵里 氏
12	3～6修学旅行	・スタディーツアー
	13成果発表会(GC)	・生徒の姿(自分の考えをもち相互にディスカッションする)2年生全員発表
	11いじめ防止対策委員会②	・職員・保護者研修(SC)
	20スタディースター発表会	・1学年、修学旅行のスタディーツアーをまとめ発表
1	次年度へ向けての提言～3月	
2	19学校評議員会	・事業の報告 ・アンケート3(SOS)
3	4いじめ防止対策委員会③	・職員・保護者研修(SC)



(2) 自己効力感アンケート及び結果

1年生アンケート(1年 組 号 氏名

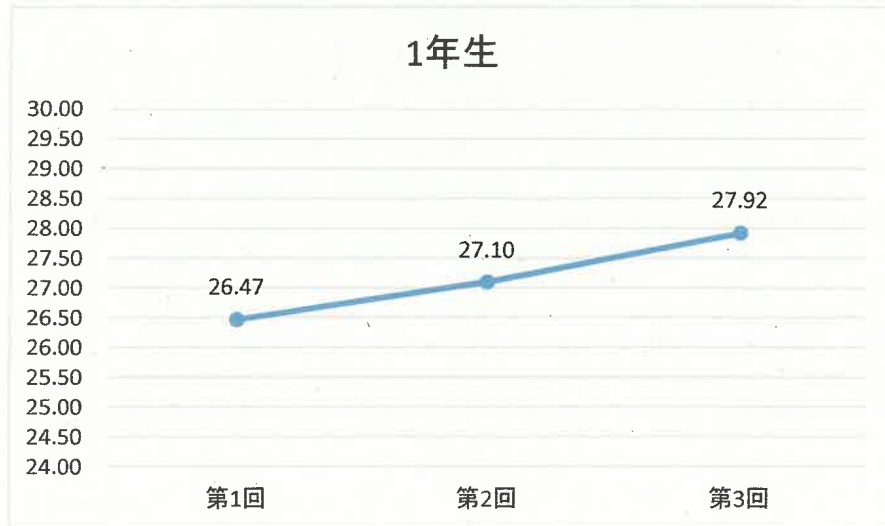
) 第2回(R元年9月)

このアンケートは教育相談部の資料のみとして使います。今の自分として考え、下の文章の質問項目で当てはまるものに○を付けて下さい。最後に、点数の合計の記入をして下さい。

- 1 私は、自分自身にだいたい満足している。  
(1=強くそう思わない 2=そう思わない 3=そう思う 4=強くそう思う)
- 2 時々、自分はまったくダメだと思うことがある。  
(1=強くそう思う 2=そう思う 3=そう思わない 4=強くそう思わない)
- 3 私にはけっこう長所があると感じている。  
(1=強くそう思わない 2=そう思わない 3=そう思う 4=強くそう思う)
- 4 私は、他の大半の人と同じくらいに物事がこなせる。  
(1=強くそう思わない 2=そう思わない 3=そう思う 4=強くそう思う)
- 5 私には誇れるものが大してないと感じる。  
(1=強くそう思う 2=そう思う 3=そう思わない 4=強くそう思わない)
- 6 時々、自分は役に立たないと強く感じることもある。  
(1=強くそう思う 2=そう思う 3=そう思わない 4=強くそう思わない)
- 7 自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じている。  
(1=強くそう思わない 2=そう思わない 3=そう思う 4=強くそう思う)
- 8 自分のことをもう少し尊敬できたらいいと思う。  
(1=強くそう思う 2=そう思う 3=そう思わない 4=強くそう思わない)
- 9 よく、私は落ちこぼれだと思ってしまう。  
(1=強くそう思う 2=そう思う 3=そう思わない 4=強くそう思わない)
- 10 私は、自分のことを前向きに考えている。  
(1=強くそう思わない 2=そう思わない 3=そう思う 4=強くそう思う)

合計点数( )点

	第1回	第2回	第3回
平均	26.47	27.10	27.92
最高点	39	40	40
最低点	13	15	10
30点以上	94人(22.8%)	111人(27.1%)	138人(34.0%)
20点以下	36人(8.7%)	28人(6.8%)	18人(4.4%)



### 新聞タワー指導案

H31,4,1(月)  
教育相談部

1 目的

リーダーシップ教育として共同作業を通して、仲間との協働性を身に付け、集団への貢献を考える力、他者と協働して課題解決へ向かう力を育成する。

2 準備物

新聞紙 6枚  
セロハンテープ メジャーまたは物差し

3 展開 (60分)

時間	活動内容	留意点
10分	班編成(5~6人の班)  アンケート実施(別紙)  <b>目的の確認</b> 時間内にできるだけ高い新聞タワーを作ることを通して、新しい仲間と協力することを目的とする。 <b>アイスブレイク</b> しりとり自己紹介	○協働作業を行うことにより、お互いのよさを見つけたり、互いに協力し合ったりという意識を高める。  ○グループ内ではじめに自己紹介をした人の名前の最後の一文字をとり、その言葉から始まる自分を説明するような形容詞を付けて自己紹介。 (例) せいせいたろう→ うるわしいとよく言われるやまだはなこです ※時間があれば2周・3周する
20分	<b>ワークショップ①</b> (ワークシート) 新聞タワーの説明(5分) (注意事項) 1 新聞紙6枚を使用 2 紙は折り曲げても切っても良い 3 はじめに、作戦タイムを行う。 4 作戦タイムは紙1枚にだけ触れていい。 ◇作戦タイム(5分)→組み立て(5分) ※組み立てタイム終了後、全員がタワーから手を離し、10秒間直立なら成功 <b>振り返り①</b> (5分) ◇自己評価、良かった点、改善点を話し合う。(振り返りポイント) 1 互いが意見をを出し合うことができたか 2 役割分担をして、進めることができたか 3 よい考えを認め、共有して作成できたか 4 時間を意識して、協力できたか	○新聞タワーの作成方法を説明、注意事項を確認。2回戦行うことを伝える。 自分の考えを伝えたり、仲間の話をよく聞いたりして、互いに協力しようとする姿を認める。  ○1回目の新聞タワーを見ながら、感じたことや気付いたこと、よかったこと、改善点を交流し、第2回目に、さらに高いタワーを作成するためには、どうしたらよいかを話し合うようにする。
20分	<b>ワークショップ②</b> (ワークシート) ◇作戦タイム(5分)→組み立て(5分) ※終了後、タワーの高さを計測して発表(5分)	○できるだけ高いタワーを完成するためには、チーム全員で知恵を出し合い、作戦を立て、協力することの大切さを助言。 ○協力して積み上げていく中で、仲間に合わせてたりコミュニケーションをとったりしている姿を褒める。
5分	<b>振り返り</b> (ワークシート) ワークシートに感想等をメモし、交流	
5分	<b>リーダーシップ教育について</b> ◇本校でこれから行うリーダーシップ教育について述べる 本事業で目指す本校生に求める姿・自己理解のフェーズ・リーダーシップ行動のフェーズについて説明 ◇今後も活動を行うことを確認	○別紙参照

# 高い新聞タワーを作ろう！

1年組号 氏名 \_\_\_\_\_

## 新聞タワー1

### チームの作戦1

### 振り返り(1回目について)

	振り返りポイント	自己評価○○△
1	自分の意見を出すことができた。	
2	自分の役割を意識して作成した。	
3	仲間のよい考えを認め共有できた。	
4	時間を意識して、協力できた。	

### ☆自分のチームについて 良かった点 & 改善点

### チームの作戦2

(感想)・新聞タワーを仲間と一緒に作り、振り返りをしてどうだったか？  
・今日学んだこと・考えたことは何か？

エンカウンター（新聞タワー）の生徒感想（一部抜粋）

【新聞タワーを仲間と一緒に作り、振り返りをしてどうだったか？

今日学んだこと・考えたことは何か？】

- ①協力してできた。誰も否定する人がいなかった。 人任せにすることがなくてよかった。
- ②協力して効率よく進めることが出来て良かった。チームの意見を取り入れてより良いものにしていくことが大切だと思った。しっかり声掛けしていくことで少しずつ活発になり楽しかった。
- ③一人では思い浮かべないことが集まることでアイデアがどんどん浮かんできた。必死に知恵を集めることができ協力は人数以上のことができると学んだ。
- ④みんなの意見を出し合うことによってグラグラしていたタワーがきれいにまっすぐたてることが出来た。また、みんなと話をすることができたので良かったです。みんなで何かをすることによってどんな人とも打ち解けることができると思った。
- ⑤内田君が新聞をくるくるするのが得意だったので活躍していた。漆野君は率先して組み立てていた。僕は土台を押さえて組み立てる手伝いをした。自然と一人一人役割を持って動いていた。みんな役割を意識しなくても自然とそうになっていた。
- ⑥皆とたくさん意見が交換できてまた楽しみながらできたので良かった気がします。ただ、色々意見を取り入れたことがかえって意見がまとまらないという結果につながってしまったことは反省点だと思います。
- ⑦楽しかった。でも、あまり自分の意見が言えなかった。後でうまくいかなかった時に、言えばよかったと後悔した。次からはこの様なことがないようにしたい。最後は高いタワーが作れた。私も少し意見を出して手伝って上手くいったのでうれしかった。これからは自分の意見を積極的に言えるように意識したい。
- ⑧納得できる意見が次々に出され、今までの中で一番高い新聞タワーができた。また、優しい所など、いい所を見つけたのも良かったと思う。自分の意見を持ち、相手の意見を尊重しながら話し合うと上手くいったのが良かった。また、自分の役割をしっかりと果たすこと、あまりしゃべったりしていない人に意見を聞くといい声が返ってきたのでそれが大切だと考えた。
- ⑨人の技を盗むことができ、結果的には失敗だったが納得のいくものだった。人と協力して一つのものを作るのは、難しいがやりがいのあるものであると知り、これからも人と協力して何かを成し遂げたいと思った。
- ⑩人から学べるものがたくさんある。自分の考えにプラスして考えるとさらに良いアイデアが思い浮かんだ。
- ⑪探求心と協力、楽しんでやることが大事だと思った。みんな楽しく過ごすことができ良かった。新しい考え方を学べた。話したことの無い人とも話せた。
- ⑫みんな協力して何かをするときは、個人としてできることを中心にすると円滑に進められること。テープを巻いたり、意見を出した。
- ⑬全員が話し合いに参加して、協力することは、物事を最善に行うために必要不可欠だと知った。一人で解決策を考えよりも、大多数の意見を共有したほうが良いと思う。
- ⑭初めて話す人とでも、何か目的があれば会話が生まれ、その中で目標に達するまでにすることは、とても楽しいということがわかりました。

## 漢字ゲーム(質問によりリーダーシップを発揮する) 指導案

R 元年,9,9(月)  
教育相談部

### 1 目的

質問によってリーダーシップを発揮出来ることを体験する。  
自己理解・他者理解を深め、他者と協働して課題解決へ向かう力を育成する。

### 2 準備物

筆記用具

### 3 展開(50分)

時間	活動内容	留意点
10分	本日のHRの目的を述べる。 「質問することで、相手が思い描いている漢字を当てるゲームを行う。質問力を高めることが相手を引き出し、リーダーシップを発揮することにつながる。」  ※担任の先生方は、漢字を2種類考え、紙に書いておく。(先日の職員研修では「助」と「徳」でした)	
10分	生徒達は5人程度の班を作成する。 <b>ワークショップ①</b>  ・各班1名に、正解の漢字を教える。 ・他の班員は、その漢字を導くための質問をする。質問は、制限時間内で繰り返す。正解が出れば終了。 ※①出題者は、一度に一つの答えしか言えない。 ②出題者は、質問された内容にしか答えることができない。 ③訓読み・音読みを聞くのはNG 例:「忍」について「忍ぶ」「ニン」はだめ	○時間があれば簡単なアイスブレイク  * 質問の仕方、返答の仕方について、具体的に説明をする ○閉じた質問 ・「はい・いいえ」など、相手の話し方が限られる質問 ・論点を絞り込みたいときは有効 ・決断を迫るときは有効
10分	<b>ワークショップ②</b>  ・2種類目の漢字で同じワークショップを繰り返す。	○開いた質問 ・5W1H(What When Who Where Whh How) ・たくさんの情報が欲しいとき ・相手に考えさせたいときは有効
10分	<b>振り返り</b>  ・漢字ゲームで、チームメンバー全員に対してポジティブ面を振り返る。 ・ワークに振り返りを記入し、グループ内で発表。その後、いくつかのグループは全体の前で発表する。	○どんな状況でどんな質問がどう影響したかを振り返る。 例:「質問が思い浮かばなかったときに、Aさんが初めに質問をしてくれたので、自分の聞きたいことが引き出せた」 ○批判的な態度をとらず、傾聴する。
10分	<b>まとめ</b>  質問によりリーダーシップを発揮するために ①目標設定と共有(成果目標を掲げ、共有) →質問によって確かめる ②率先垂範(成果達成のため、自ら動く) →質問によって口火を切る ③相互支援(他人を巻き込み支援する) →質問によって支援 質問によって支援を求める	○目標にたどり着くときに、他者の力を借りても良いことを理解する。  ○誰でもがリーダーシップを発揮出来ることを理解する

ワークシート

漢字ゲーム（質問によりリーダーシップを発揮する）

1年組号 氏名

班員：( )

ワークショップ①

私の考えた質問

印象に残った他の人の質問

ワークショップ②

私の考えた質問

印象に残った他の人の質問

【 振り返り 】

☆チームメンバー全員に対して、良かった面を考えよう。  
(どんな状況で、どんな言動が、私にどのように良く影響したか)

ワークショップ①

ワークショップ②

☆今日のグループワークから考えたことは何ですか？

エンカウンター（漢字ゲーム）の生徒感想（一部抜粋）

【チームメンバー全員に対して良かった点、グループワークから考えたこと】

- ①ヒントを出した時に、みんなが意見をたくさん出す姿勢から、チャレンジすることの大切さを感じた。
- ②最初に手を挙げた人がきっかけでみんながどんどん発言していったとっても楽しい雰囲気が作れて良かった。
- ③人に遠回しに伝えることは難しく、そのような状況で自分のそんな言動が良く悪く影響するのか考えた。数少ない答えにけっして直結しない質問から導き出すのは難しかった。皆、積極的に質問していても良かった。
- ④漢字のイメージがバラバラで面白く、個性を知ることができた。
- ⑤人の意見を丁寧に聴き、自分の意見を積極的に出すことの大切さを感じた。
- ⑥自分1人ではなく、他の人と言うことで一つの答えにたどり着くことができた。
- ⑦自分の考えを積極的に発言し、他の人の発言をしっかりと聞くことが大切だと思った。
- ⑧質問を活発にすることで、たくさんのコミュニケーションをとれて、目的に早くたどり着くことができると思いました。
- ⑨自分が考えつかないような他の人の質問を共有することで答えにたどりつくのだと思った。
- ⑩みんなで協力して一つの答えを見つけ出すことは、難しい分達成感が大きい。
- ⑪実際将来、知らない相手やいろんな人と会話する中で、相手のことや考えていることを質問して、わかるようにこれからもトレーニングをしたいなと思いました。
- ⑫一人で考え込むのではなく、周りと意見を共有しながら解決していくことの大切さ。
- ⑬みんな考え方が違って、やっぱり集まると良い考えが導かれるんだと思った。
- ⑭一人一人に足りないことを補い合うこと。それぞれの分野で得意な人がいるから、わからないことは得意な人に聞くなどして、関係を深めることが大切。また、自分からコミュニケーションを取ろうとすべき。
- ⑮仲間と力を合わせると、一人ではできないことができるようになると思った。
- ⑯みんなで協力して質問の流れが変わっていくのは面白かった。
- ⑰多くの質問があり、答えに少しずつ近づいていく感じがして嬉しかった。
- ⑱自分の思ったことや考えたことをためらわずに言うことが大切だと思った。
- ⑲目標に対して解決の方法が分からないときに、リーダーシップを取る人がいることで雰囲気が良くなりゴールへと近づいていくと感じた。
- ⑳一人一人意見を持つことは難しいけど、しっかり考えて持たなければいけないと思った。そしてそれを口に出して伝えることができなければ何の意味もないのでコミュニケーションの大切さを改めて理解することができた。
- ㉑他人の質問から自分の中に新しい質問を思いつくこともあったので、複数人で考えることは大切だと思う。
- ㉒権限がなくてもリーダーシップを発揮できる人は、協力と主張ができる人ではないかと考えた。
- ㉓誰かに任せるのではなく、主体的にたくさんの質問をするのが正解に近づくことができると分かりました。
- ㉔メンバー全員が発言しやすい空気を作るのも大切だと考えた。



(5) 授業デザインシート

SOSの出し方に関する教育研究 公開授業デザインシート

1 基本情報

実施教科	コミュニケーション英語 I 「Predictions of the Future」
月日時	6月13日(木) 5限
実施教室	1-6
授業者	竹原亜紀

2 授業者の課題意識

本校生は、全体的に活動的な生徒が多い。しかし、中には、自分の意見を主張するばかりで周囲の意見を聞けていない生徒や、内向的で自分の意見を主張しながらない生徒もいる。現在の目標は、生徒の個性に応じて、それぞれが周囲への配慮を行いながら、自信を持って自分の意見を主張することのできる雰囲気を生徒たちが自ら作り出すことだと考えている。グループで協働するにあたり、グループの中で自分の役割を見出し、全体へ貢献する態度を育みたい。

3

教授の見どころ	発問 生徒がすぐに反応し答えられて、授業が活気づくような問いかけを工夫する。 教材 Lesson3の「科学技術を賢く利用するために想像力を働かせよう」というテーマに関連した内容で、生徒たちが楽しく、興味を持って取り組める内容を考えた。 展開 生徒に応じて意見を出しやすい課題を示し、グループ内で意見が重ならないように工夫した。
学習の見どころ	グループでの話し合いは、より考えが深まるように日本語で行い、最終的には英語でまとめる。各グループが協働するにあたり、どのように生徒が目標設定し、活動しているか。

4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか(目指す姿)
◎③ 言語化	自分の意見を言葉にしてはっきりと伝える。
① 目標設定・共有	議論がそれないように、何をするのかを確認して進める。
◎⑥ 率先垂範	積極的に自分の意見を伝え、グループの意見をまとめる。
⑦ 同僚支援	意見をよく聞き、反応することで意見を言いやすい雰囲気を作る。

切り取り

[授業者へ一言エールをお願いします]

## 1 基本情報

実施教科	家庭科
月日時	令和元年11月11日(月) 6限
実施教室	被服実習室
授業者	井手 文子

## 2 授業者の課題意識

<p>本校生は、家庭科の授業に意欲的に取り組んでいる。幼稚園実習では、一生懸命に園児と交流する姿が見られた。ただ、児童虐待などの現代の保育課題については、遠い先の話と考えており、身近な問題としてとらえていない生徒が多い。今回の目標は、現代の保育課題を自分のものとしてとらえ、課題解決のために他人と共に考え、他人の意見を否定せず傾聴しまとめていく中で、班での解決策を考えてまとめることである。その中で、個人や社会の一員として課題解決の方法を主体的に考えることを目標とする。</p>
---

## 3

教授の見どころ	<p>(テーマの決定) 4つのテーマから、グループで話し合いをするテーマを決定する。班での合意形成がうまくいくかどうかポイントである。</p> <p>(グループでの話し合い) テーマに沿った話し合いを展開するが、自分ができる行動で班に貢献することを目標とする。率先して意見を出したり、班員の話を否定せずしっかり聞いたりまとめたりすることがポイントである。</p>
学習の見どころ	グループの話し合いの結果を用紙にまとめて発表すること。各グループでの協働作業がポイントになる。

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか(目指す姿)
目標設定・共有	保育課題について主体的に考えることができる。
言語化	自分の考えをまとめ、相手に伝えることができる。
率先垂範	積極的に意見を出したり、用紙にまとめたりする。
同僚支援	相手の意見を否定することなくよく聞く。

切り取り

[授業者へ一言エールをお願いします]

## 1 基本情報

実施教科	情報
月日時	令和元年 11月 11日 (月) 6限
実施教室	第1パソコン室
授業者	金子 周平

## 2 授業者の課題意識

<p>コンピュータを利用した実習は、普通の座学とは違う授業形態となる。一部の生徒は自分の得意な部分を生かし、熱心に取り組む様子が見られる。一方で、コンピュータを苦手と感じたり、操作に不安を覚えたりすることで、指導内容が完全に定着しない生徒も見られる。また、個人単位での活動になりやすく、理解できない生徒がそのままになってしまうことも考えられる。そこで、今回はグループでの活動を意識させ、生徒それぞれがグループのメンバーに関わり合うことで、表計算ソフトの機能に関する理解を深め、課題解決のためのツールとして活用方法を身につけられる環境を目指したい。</p>
---

## 3

教授の見どころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師側の発問・説明を少なくし、生徒自ら答えを求め、理解を深めていく活動</li> <li>・試行錯誤させ、「わかった」と実感できる環境づくり</li> </ul>
学習の見どころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解できた生徒が、戸惑っている生徒へ積極的に関わる様子</li> <li>・困ったときに、他の生徒へスムーズに尋ねることができる様子</li> <li>・教わったことを自ら実行し、理解できたことが実感できる様子</li> </ul>

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか（目指す姿）
目標設定・共有	表計算ソフトの機能を、データの処理に活用することができる
言語化	操作方法及びその根拠を正しく説明できる。
率先垂範	グループ全体で課題を解決できるよう行動している。
同僚支援	操作に困っている生徒にアプローチし、教えることができる。

切り取り

[授業者へ一言エールをお願いします]

## 1 基本情報

実施教科	音楽 I
月日時	令和元年 11 月 11 日 (月) 6 限
実施教室	音楽教室
授業者	荒木良吾

## 2 授業者の課題意識

本齋生は、授業に対して積極的に取り組む生徒が多く、歌唱活動においても大きい声を出す生徒も多い。しかし、それらは特定の生徒に集中しており、恥ずかしい、音に自信がない、などの理由で声をあまり出さない生徒も存在する。現在の目標は、歌唱活動の授業でパート練習を行う際には、生徒自らが率先してリーダーシップを発揮し、練習がスムーズに進行するように活動し、音やリズムがわからない生徒がいたらわかる生徒が助けてあげる、など協働して授業に参加できるような環境作りを行いたい。

## 3

教授の見どころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士で助け合い、お互いに意見を出し合いながら正しい音とリズムを身に付けていく様子</li> <li>・全員で合わせる時に、他のパートの音を感じながら自分のパートを歌うことができるようになる様子</li> <li>・自分が歌っていない時に、他のパートをよく聴いて全体のバランスを考えて自分の声の出し方を調節する様子</li> </ul>
学習の見どころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パート練習において積極的に活動に参加できているかどうか</li> <li>・お互いに助け合いながら活動に参加しているかどうか</li> </ul>

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか (目指す姿)
目標設定・共有	音をとるだけでなく、音楽的表現を考えながら歌う。
率先垂範	積極的に活動に参加し、声を出す。
同僚支援	協力して音をとったり、リズムをたたいたりする。
言語化	感じたことを言葉にして他の生徒に伝える。

切り取り

{授業者へ一言エールをお願いします}

## 1 基本情報

実施教科	数 学
月日時	令和元年11月11日(月) 6限
実施教室	1年9組教室
授業者	松尾 直之

## 2 授業者の課題意識

<p>近年は、これまでも増してコミュニケーション能力や自分の意見を発信する姿勢が求められている。</p> <p>1年9組は素直で思いやりのある生徒たちばかりであるが、その反面こちらからの発問に対して、間違えることを恐れてか答えられないこともしばしばある。従って、グループ活動を通して間違いを恐れずに自分の意見を述べたり、班員と協力して意見をまとめたりして、上に挙げた力を養成してほしいと考える。</p>
---

## 3

教授の見どころ	問題に対する深い考察をさせられているかどうか。
学習の見どころ	グループ学習で活発な活動ができているか。

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか(目指す姿)
言語化	自分の意見を具体的に分かりやすく述べる。
率先垂範	班で協力して意見を集約する。
プレゼンテーション能力	自班で出た意見を他班の人にきちんと説明する。
インプット・アウトプット	他班で出た意見を自班の人にきちんと説明する。

切り取り

[授業者へ一言エールをお願いします]

## 1 基本情報

実施教科	物理
月日時	令和元年 11 月 11 日 (月) 6 限
実施教室	物理第 2 教室
授業者	赤峯 達雄

## 2 授業者の課題意識

<p>生徒は、理解力は高いが、学習したことの定着状況が良くない。このことは、学習内容が抽象的な知識レベルでとどまっている。学んだことを実生活で活用できる知識として定着させる方法はないだろうか。</p> <p>実験を行う場合、すでに答えがわかっていることに対して行うために生徒の全体的なモチベーションが高まりにくい。生徒全員が実験を通して主体的に深い思考に向かう授業にはできないだろうか。</p>
---

## 3

教授の見どころ	指示は最小限にして、生徒が自発的に課題に向かうように問を積み重ねる。すぐに解決できる問（小さい問）と授業中は解決できない（大きい問）の配合について工夫している。
学習の見どころ	どの班の生徒も実験課題の解決に向けてアクティブに活躍する。互いに評価しあう姿を見てほしい。

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか（目指す姿）
論理的思考	既習事項に基いて理解したことを、グループ内でわかりやすく表現している。
自己の目標設定	グループの中で果たすべき役割が明確である。
率先垂範	自ら進んでグループの目的の実現に貢献している。
同僚支援	目標達成に向かうグループの活動をサポートしている。

## 1 基本情報

実施教科	物理
月日時	令和元年 11月 11日 (月) 6限
実施教室	物理第1教室
授業者	中山 武也

## 2 授業者の課題意識

クラスの雰囲気が高く、学習意欲が高い。一方で物理や数学に関する基本事項が定着していないため、物理を苦手としている生徒も在籍している。授業者として「授業の出席者から参加者となること」、「わからないことを友人や教員に質問することは授業に貢献することである」と年度当初から繰り返し伝えている。しかし、生徒の多くはおとなしく、自ら質問をするような場面はほとんどない。2学期から授業の活性化を促すため、座席をフリーアドレス制にし、教室の壁面にホワイトボードを設置するなどの工夫をしているがまだまだ活発な議論（対話）が行われていない。

そこで、本時のガイダンスを含めたリーダーシップ教育の視点を取り入れた4回の授業を通じて、生徒全員が実験を通して主体的に深い思考に向かう態度・意識の育成を目指す。

## 3

教授の見どころ	本校の1学年で取り組んでいるリーダーシップ教育を2年生に導入する第1回の授業であり、リーダーシップ教育の視点を取り入れたグループ活動を導入として取り入れる。
学習の見どころ	ガイダンス、グループワーク及び振り返り（フィードバック）を通じて、オールリーダーシッププログラムに関する理解を深め、次回からの実験に関する意欲を高める。

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか（目指す姿）
論理的思考	
自己の目標設定	グループの中で果たすべき役割を自ら設定できている。
率先垂範	自ら進んでグループの目的の実現に貢献している。
同僚支援	グループ活動における目標達成に向かう班員をサポートしている。また、わからないことを班員に伝えることができる。

## 1 基本情報

実施教科	英語表現Ⅰ スキットコンテスト
月日時	令和元年11月11日(月) 6限
実施教室	1-4
授業者	Charlotte Caddick, Aaron Long, 竹原亜紀

## 2 授業者の課題意識

本学級の生徒は、男子20名、女子21名である。意欲的な生徒は活発に意見を言ったり、活動に素直に取り組んだりするが、消極的な生徒は、英語を苦手としており、周囲とコミュニケーションを取ろうとしない。その原因は、英語への自信のなさや人間関係などが考えられ、特にALTとのチームティーチングでは、取り組みに前向きなグループと、準備がなかなか進まないグループの差が大きい。スキットに取り組むことによって、お互いに協力することの大切さを学び、少しでも自己肯定感を高めてもらいたいと考えている。

## 3

教授の見どころ	<p>発問 なるべくALTによる英語での発問を心がける。ただし、生徒の反応を見ながら、日本語で支援も行う。</p> <p>教材 生徒たちが好きなテーマで英語を話すことを楽しめるよう、スキットに取り組ませている。</p> <p>展開 最初に生徒がそれぞれの目標を決めて、授業中に何を頑張るのか意識させる。</p>
学習の見どころ	各グループが協働するに当たり、どのように生徒が目標設定し、活動しているか。相互評価では、相手にどのようなコメントをしているか。

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか(目指す姿)
言語化	自分の意見を言葉にしてはっきりと伝える。
目標設定・共有	目標を共有し、その成果を伝えることができる。
率先垂範	意欲的に取り組み、周囲にも行動を促すことができる。
◎同僚支援	意見をよく聞き、反応することで意見を言いやすい雰囲気を作る。

切り取り

〔授業者へ一言エールをお願いします〕



## 1 基本情報

実施教科	国語総合（古典）
月日時	令和元年11月11日（月）6限
実施教室	1-10
授業者	中村静夏

## 2 授業者の課題意識

本学級の生徒は男子20名、女子21名である。授業中はこちらが指名せずとも積極的に発表することができる生徒も多いが、意見を発表する生徒に偏りが見られる。また、発表者の中には他者の意見を取り入れて自分の考えや答えをよりよいものにしていくという態度がみられない者もいる。古文の訳や和歌の心情を話し合っって考えることで、他者とのコミュニケーション能力を育むとともに、自己の考えと比較し、互いによりよい結果を目指す姿勢を身に付けてほしい。

## 3

教授の見どころ	・全ての訳や文法事項をこちらから指導するのではなく、問いかけや解説は最低限にし、生徒が自発的に文法や心情について考えるよう工夫している。
学習の見どころ	個人で考えた訳や和歌の心情が班活動を通してよりよいものになっているか。

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか（目指す姿）
目標設定・共有	何を目的としているのか、明確にする。
言語化	自分の考えを根拠をもってはっきり言葉で伝える。
率先垂範	積極的に発言したり、他者の意見をまとめたりする。
同僚支援	他者の意見をよく聞いたり、困っている相手に働きかけたりする。

切り取り

〔授業者へ一言エールをお願いします〕

## 1 基本情報

実施教科	保健体育（体育）
月日時	令和元年11月11日（月）6限
実施教室	ハンドボールコート（外）
授業者	中山 恵太

## 2 授業者の課題意識

<p>2年8組の生徒はハンドボール部が2人のみで他の生徒はハンドボール未経験者である。本時までハンドボールのルールや攻撃と守備のたまかな手段は指導してきた。今後の課題は攻撃面ではハンドボール特有のステップを使ったシュートやパス。相手選手の動きを観て効果的に空いた空間を使って試合をする力などが課題である。守備面においては相手選手に走りこむ空間を与えず、ボール保持者にプレッシャーを与え続けることが課題と考える。</p>
---

## 3

教授の見どころ	本時は練習メニューから試合まで生徒たちが前時の試合で出た課題を基に練習や試合を行う。
学習の見どころ	班ごとに試合の合間に映像を観たり、分析係が意見を述べたりするなどして班員全員で課題解決に向かう。生徒の話し合いやチーム・個人の課題に対する周囲のサポートする姿を見てほしい。

## 4 育成を期す資質能力

項目	授業中に生徒のどのような姿を目指すか（目指す姿）
状況把握	自己やチームの課題を発見できる。
言語化	グループミーティングの際に自己の考えや意見を述べるができる。
率先垂範	自らの課題を進んで見つけることができる。
同僚支援	課題解決に向けて他者の意見を尊重して発言ができる。

切り取り

[授業者へ一言エールをお願いします]

## 高等学校第1学年家庭科家庭基礎学習指導案

令和元年(2019年)11月11日(月)6限目

教科・クラス:家庭科 1年2組

(男子20名 女子22名)

担当者:教諭 井手 文子

- 1 単元名 第2章 子どもと共に育つ (4) これからの保育環境  
(使用教科書:家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍))

### 2 単元観

現代我が国は超高齢社会となり、小家族化も進み、家族の構成人数も減少してきている。きょうだい数も減少する中で、高校生が乳幼児に触れ合う機会も減少している。

現代社会では、児童虐待の増加や遊び場の減少など、子供を取りまく環境は変化し多くの課題が生じている。将来親や社会人となる高校生が保育分野で子供の生育過程や遊びの役割、社会・地域・親の果たす役割について学ぶことは、未来を担う子供達を社会で支えるという視点で、大きな意義を持っている。

家庭基礎の保育分野の学習を通して、子供の育つ力と発達段階の様子を知るとともに、子供を取りまく社会変化の状況について考え、課題に理解を深めることを目的とする。また、幼稚園実習を通して、実際に子供たちと触れ合うことにより、愛着形成の重要性を知り、子供にとって望ましい生育環境や、社会的弱者といわれている子供たちの社会的支援について考える。更に、幼稚園実習などのグループ活動を通して、目標を共有し、達成のために他者とともに考え、他者を支援したり支援を求めたりする行動から、リーダーシップ力の育成を図る。

### 3 生徒観

1年2組の生徒は、大変意欲的に家庭科の授業に取り組んでいる。授業態度や提出物の提出状況も良好である。授業中に意見も活発に交わすことができている。先日の幼稚園実習では、どのグループにおいても一生懸命園児と交流する姿が見られた。また、授業の目的・目標を理解し、積極的に授業に取り組むことができている。

### 4 指導観

- 乳幼児の心身の発達や親との関わりを知ることにより、愛着関係の重要性を理解させたい。
- 幼稚園実習で子供と触れ合うことにより、乳幼児の発達・親の役割・集団保育の役割について理解させたい。
- 現代の子育て環境の現状を知ることにより、社会での子育て支援について理解を深めさせたい。

### 5 単元の目標と評価規準

- ・乳幼児への理解と関心を深める。
- ・子育て環境の課題を理解し、課題解決のためにできることを考える。
- ・幼稚園実習などの活動を通して、主体的に活動し、他者と協力して課題解決へ向かう態度を育成する。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動に積極的に参加することができる。</li> <li>・幼稚園実習で子供との交流を積極的に行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の子育て環境の課題や解決策について、高校生の視点で考え、まとめることができる。</li> <li>・幼稚園実習について、様子や成果をワークシートや色画用紙にまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園実習において、子どもと適切に関わり、子供の様子の観察をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の心身の発達について理解している。</li> <li>・子育て環境の課題に対する支援を個人や社会の視点で理解している。</li> </ul>

## 6 単元計画

第2章 子どもと共に育つ（12時間）

- (1) 子どもの育つ力を知る（2時間）
- (2) 親として共に育つ（1時間）
- (3) 子どもとの触れ合いから学ぶ（6時間）※幼稚園実習2時間
- (4) これからの保育環境（3時間）※本時1/3時間

### 指導計画と評価基準

時	学習目標	学習活動	評価の観点				評価基準B及び評価方法
			関	思	技	知	
(1)	子供の成育過程や愛着関係を理解するとともに、遊びの意義や現代の遊びの課題を考える。	子供の心身の発達 現代の遊びの課題	○			○	子供の発達の特徴を理解することができる。遊びの重要性と課題を理解する。 【ワークシート】 【定期考査】子供にとっての遊びの意義
(2)	子供に対する親の役割を理解し、責任の重要性について認識する。	乳幼児の健康管理 室内の危険箇所チェック		○		○	親の役割を理解し、保育環境について考えることができる。 【ワークシート】
(3)	乳幼児とのかかわりの中から子供や親への理解を深める。	幼稚園実習	○		○		乳幼児と積極的に関わることができる。子供への支援をすることができる。【幼稚園実習感想】 【まとめの色用紙】
(4)	保育課題を知り、その解決策について主体的に考える。	・DVD「笑わない赤ちゃん」視聴 ・グループで保育課題について考える		○		○	個人や社会の果たす役割について考え、提案することができる。 【ワークシート】【用紙】

## 7 本時の学習

### (1) 本時の目標

現代の保育課題やその解決策について高校生の視点で考えることにより、課題を身近なものとしてとらえ、個人や社会の果たす役割について考える。

### (2) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	準備物
導入 (5)分	本時の学習内容の確認	事前に4～5人のグループを編成しておく。  本日の学習内容を知らせる。  リーダーシップのポイント（目標共有・率先垂範・同僚支援）を理解させる。  自分ができる行動でグループ活動に貢献するように伝える。	教科書  ワークシート
展開 (40)分	①4つのテーマから1つのテーマを決定	<b>現代の子育て環境の課題と解決策を考える</b>  班での合意形成がうまくいっているかを確認する。	ワークシート  用紙  マジック

	<p>②テーマについて個人で考える</p> <p>③テーマについてグループで考え、班の意見を用紙に記入する。</p> <p>④班ごとに発表をする</p> <p>⑤振り返りをグループで行い課題について再思考する。</p> <p>⑥振り返りをクラスで行う</p>	<p>まず、個人で考えを深める。</p> <p>班で出た良かった意見を記録するように促す。</p> <p>色々な役割を果たし、班員が協力して用紙を作成するように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価：思考・判断・表現</p> <p><b>B基準</b></p> <p>個人や社会の果たす役割について提案する。</p> </div> <p><b>A基準</b></p> <p>個人や社会の果たす役割について提案し、高校生としてできることを考える。</p> <p>&lt;B基準に達していない生徒への手立て&gt;</p> <p>説明プリントや教科書を参考にして、考えを深めるように促す。</p>	
<p>まとめ (5)分</p>	<p>教師によるまとめ</p> <p>次週の予告</p>	<p>様々な課題を主体的に考える必要があることを伝える。</p> <p>子育て環境を整えるには、社会的支援と子育てへの理解が必要なことを伝える。</p>	

家庭基礎 アンケート結果（令和2年2月）

対象：1年生6クラス240人

評価：5（大変良くできた）→1（あまりよくできなかった）の5点満点の点数による評価

実施期日：令和2年2月

【結果】

- ①実習のないように目標を全体的に理解することができた（目標共有）（平均4.6）
- ②実習でやるべきことを把握することができた（目標共有）（平均4.6）
- ③担当の作業を率先してやることができた（率先垂範）（平均4.7）（高い）
- ④作り方についてアドバイスを班員にした（同僚支援）（平均4.0）（低い）
- ⑤他の班員と対話して作業を行った（同僚支援）（平均4.7）（高い）
- ⑥わからないメンバーに作り方を教えたり手伝ったりした（同僚支援）（平均4.3）
- ⑦わからない所をメンバーや教師に質問した（援助希求）（平均4.5）

【生徒の感想】

（班での調理実習の回数が増える度に良くなった点はどんな点・主体的な役割分担の利点）

- 使う道具の準備や片付けが早くなった。調理が上手な人にずっと教えてもらって野菜の切り方が上手になった。お互いに助け合って信頼関係を築けた。
- 調理をする際の会話が増え、スムーズに調理が進んだ。他の人の良い所を見つけられた。
- 得意なこと苦手なことなどを考慮し自分たちで役割分担をして作業がしやすくなった。
- 最初は、自分の役割で精一杯で他のメンバーと協力できなかったけど、だんだん周りを見ることができるようになって班の人と助け合いをして効率よく作れるようになって食べる時間が長くなって、楽しみながら食べられるようになった。

家庭基礎 「SOS の出し方に関する教育」研究指定校事業の公開授業  
「これからの保育環境 ～グループ活動でリーダーシップを育む～」

実施日：令和元年11月11日（月）

対象：1年2組（41名）

【生徒の感想】

- グループ学習については、住む違いによる様々な意見を聞くことができ、良かった。子どもに関する知識や現状を親の会話で聞くことはあったが、自分のこととして受け止めることができた。色々子どもの問題について興味を持つことができた。
- グループワークをすることで、自分とは違った視点からの意見を聞け、より話し合いを深く広げることができた。理解がより深まったと思う。
- 保育環境の問題について、それぞれつながりあって作用していることがわかりました。まず、私たちができるのは、助け合いの精神と良い雰囲気作りだと思うので、周りの人とお互いに意識し合いたいと思います。
- 自分から話を出すこともとても大事だけど、話を聞くのも大事だなと思いました。遠慮せずに話していけたらいいです。
- 「働き方改革」と世間では盛り上がっているが、それと同じくらいに「子育て改革」も必要だと思った。これから広い視野を持って社会を見てみたい。
- 4つのテーマから選んで解決策を考えたけど、ある1つのテーマに対する解決策が他の3つのテーマの解決策にもなっているというのが興味深かった。
- グループで活動することで、一人だと出てこない意見が出てきたり、活動がスムーズに進んだりしてよかったです。
- 班の人と話し合う中で、自分では思いつかなかった意見を聞いて新しい意見を思いつくことができたので、話し合いはとても効果的だと感じました。
- 育児休業は女性が取るものという固定概念があったが男性でも取得できることを知って驚いた。もっと育児に関して知らない情報があると思うので興味を持っていきたい。
- 保育環境をよりよくするためには、社会の雰囲気や協力が一番大切だと思いました。グループワークをすることで自分では思いつかなかったような意見もたくさん知れたので良かったです。
- 未来をになう子どもがのびのびと成長できる社会でないことを改めて感じたことで、自分ができることから改善していきたいと思った。自分にできることは限られているが、小さな輪をどんどん大きな輪にしていきたい。
- みんなで話し合っていると、一人で考えていた時よりもたくさんの考えがでてきて良かった。グループのみんなの意見をお互いに尊重しあえて、話し合いを行ってよかった。
- 子どもを育てることも労働と同等であるということを念頭におき、子育て環境を変えなければいけないと思う。これだけ問題になっていながらなぜ未だに解決されていないのだろうと思った。

平成31年度「SOSの出し方に関する教育」研究指定校事業に係る公開授業  
アンケート集計（熊本県立済々黉高校） 令和元年11月11日（月）

提出者：高等学校関係者31名

(1) 本日の公開授業に関して、ご意見・ご感想をお書きください。

① 授業（教科：（家庭科） 実施者：（井手先生））

- グループ内で、それぞれが活発に活動していた。すべての班で実現されていました。話し合う環境づくりに日ごろから取り組まれているのだと強く感じました。互いの意見が有用であったことも生徒の発言の中にあり、協働的な学びが実践されていたことは素晴らしいと思いました。
- 教師側が、目標設定・同僚支援・率先垂範のそれぞれの視点ですべての教科に意識しながら取り入れられていることが素晴らしいと感じました。生徒達もグループ活動の中で、お互いに意見を出し合っていたと思います。ありがとうございました。
- なかなか参観する機会のない家庭科の授業を見せて頂きました。内容は子育てや児童虐待など子どもの周りの環境にまつわるものでしたが、授業の至る所にリーダーシップと思われる工夫がなされており、済々黉さんが目指されている「SOSの出し方に関する教育」が少しわかったような気がしました。とても勉強になりました。
- どの授業も、授業内容はもちろん、求められる姿勢を実現するために、生徒達が前向きに取り組む姿が印象的でした。他教科でしたが、取り組みの参考になりました。
- 生徒が意見や考えを発言しやすい環境づくりがされていると感じました。
- 教科の特色にもありますが、教員の共通認識や目指す生徒像への共通理解をしっかりとする必要があると感じました。
- とても短い時間で資料から現状を読み取り、課題を考え、解決策を考える過程の中で、コミュニケーションがとても良く取れていたと思います。（コミュニケーションがとれていたのが、解決策まで行きつき、発表までできていました）コミュニケーションの中でも役割分担が多く見られました。これは全教科で計画的に取り組むカリキュラムマネジメントの効果かと思いました。若いうちから、自分の役割の所だけすればいいのではなく、できていない所をカバーするという姿勢を身に付けることができれば幸せな人生を歩むことができると感じました。
- 最後に先生がなぜこの4つのテーマだったのか！と投げかけ解説されていましたが、先生が解説されずに生徒に考えさせても良かったのではと感じました。全体発表を全員がしっかり聞いていたので、実はテーマが繋がっていたと気付く生徒もいたのではないかと思います、全体発表の後に再度考えさせる場面を設定すれば全体発表をしっかり聞く意義につながったかと思います。
- ㊦「テーマなんにする？」「前のを見てくるね」と動いている生徒が見られました。
- ㊧「木にのぼらせる」という班員の意見に自分の知っている情報与えて本人の振り返りを周囲が促していました。伝え方がとても良かったです。経験が積み重なっています。
- テーマ設定から解決策まで考え、まとめるというところで短い時間でまとめるのは大変そうと感じましたが、班ごとによく連携ができていて感心しました。



- 生徒の主体的な授業参加の態度に素晴らしさを感じました。お互いの意見を尊重しながら様々な課題、疑問についてグループで深めている姿勢が見られ、日ごろからの先生のご指導による効果が十分感じられる授業でした。
- 授業の目標を掲示後、テーマを決めるときにはほとんどの班で誰かが「何にする？」と率先して発言していたのが印象的でした。友人の意見に対してもうなずいたり、手助けする声掛けがあり、班員同士で支援したり協力しているのがわかりました。参加していない生徒はおらず、全員がリーダーシップを発揮している姿がありました。授業みさせて頂きありがとうございました。
- 活動における目標設定が明確で、生徒達がとても活発に意見交換を行っている様子がとても印象的でした。それぞれの発言に対して、ポジティブアプローチがよくできていて人間関係づくりが進んでいることに感銘を受けました。
- 4～5人の少人数のグループで生徒同士の意見が出やすかったと思います。研究授業の前にアイスブレイクをとってあるので、気持ちがほぐれて話し合いやすかったと思います。（同じクラスの生徒同士でも全く話をしない生徒もいます）
- グループでの話し合いが大変スムーズに進み、和やかな雰囲気であることができていました。安心感につながり、意見を出しやすくなる場を子ども達同士で作ることができていると思いました。
- 公開授業お疲れ様でした。学校全体で取り組まれており、3つの視点をどの授業もおさえた授業でした。参考になりました。
- 具体的な内容を聞く声掛けがあり、さらに深く話し合いが進められていました。生徒同士の学びも多くみられ（資料から読み取りまとめるなど）みんなで進めていると思いました。
- 授業の最初に本時の教科としての目標と授業へ取り組む姿勢の目標が井手先生より分かりやすく指示され、生徒達は意識しながら活動している様子が印象的でした。決まった生徒が話を進めるのではなく、班全員でしっかり話していくことを重点がおかれ、先生のお声がけもありスムーズに進んでいました。育児をめぐる課題が関連し合っていることをまとめとして、お話しされたことで、生徒が本時の活動を深く納得していたようでした。本当にありがとうございました。

②授業（教科：（英語E） 実施者：（竹原先生））

- どの授業も、授業内容はもちろん、求められる姿勢を実現するために、生徒達が前向きに取り組む姿が印象的でした。他教科でしたが、取り組みの参考になりました。
- スキットコンテストを参観しました。授業導入で、目標の確認と自己目標設定がしっかりなされていました。自分が選んだ目標も手を挙げて確認された点は非常に効果的であると感じました。スキット発表時にもセリフを忘れた友人をさりげなく別の生徒が教えてあげるなど支援ができる環境も見られました。振り返りコメントも参考になりました。
- スキットコンテストの発表の授業でした。先生がそれぞれ話し合った題材で役割分担をしながらも協力して仕上げる、また、一人一人にコメントを返すというポジティブフィードバックもされていて、生徒達は安心できる雰囲気の中で学習できる姿が見られました。自ら目標設定し、それを共有し、率先垂範、同僚支援の場面も多くあり、これらの活動は必ず自己肯定感を高めていくものにつながると思います。

③授業（教科：（社会と情報） 実施者：（金子先生））

- 教師側が、目標設定・同僚支援・率先垂範のそれぞれの視点ですべての教科に意識しながら取り入れられていることが素晴らしいと感じました。生徒達もグループ活動の中で、お互いに意見を出し合っていたと思います。ありがとうございました。
- どの授業も、授業内容はもちろん、求められる姿勢を実現するために、生徒達が前向きに取り組む姿が印象的でした。他教科でしたが、取り組みの参考になりました。
- 生徒が意見や考えを発言しやすい環境づくりがされていると感じました。
- 教科の特色にもありますが、教員の共通認識や目指す生徒像への共通理解をしっかりとする必要がありますと感じました。
- コンピューターを利用した実習は、本校でも行っていますが、4人グループで全員ができたOK!という授業を行われていて、生徒がわからないときは周囲が教えてくれる全員参加型である所が印象に残りました。金子先生から「そのへんちょっと教えてあげて下さい」という言葉がけで教えてあげている所が重要であると実感しました。

④授業（教科：（音楽Ⅰ） 実施者：（荒木先生））

- まず、生徒達の声がよく出ていたので感心しました。音楽の授業の中で、どのようにこの研究を取り組んでおられるのか関心があって参観させていただきました。この取り組みは育成を期す資質能力の項目だとその内容をすべての教職員が理解し、共有化することが大切だと感じました。その点で、合唱（音楽）という授業の中で良く反映されていたと感じました。
- 生徒が意見や考えを発言しやすい環境づくりがされていると感じました。
- 教科の特色にもありますが、教員の共通認識や目指す生徒像への共通理解をしっかりとする必要がありますと感じました。

⑤授業（教科：（数学Ⅰ） 実施者：（松尾先生））

- 「SOSの出し方」に限らず、主体的・対話的で深い学び、受験指導という観点で見ても素晴らしい授業だったと思います。生徒達が互いを認め合い、教え合いながら興味関心を高め、学力向上に繋ぐことができる授業ができていました。今後も今日みたいな展開がより効果的となる項目を考え、授業の中で自然にリーダーシップの育成に頑張ってください。今日は午前、午後と2時間の公開授業お疲れ様でした。（東稜高校 中川教頭先生）
- 十分な教材研究、分かりやすいスライドなど純粋に数学の授業としても参考になる部分が多々ありました。ありがとうございました。

⑦授業（教科：（物理） 実施者：（赤峯先生））

- 三要素が盛り込まれ、場面設定も見事でした。

⑧授業（教科：（物理） 実施者：（中山先生））

- 中山先生がとても楽しそうに授業をされていて見ている私も嬉しくなりました。目標の示し方や生徒に意識させるための声掛け等、たくさん参考になりました。

⑨授業（教科：（体育） 実施者：（中山先生））

- 大変勉強させて頂きました。特に興味を持ったのが、映像を見ての分析の高さです。中には自己の課題だけでなく他者の課題にまでアドバイスをしていた点が素晴らしかった。リー

ダーシップを発揮しているシーンが目立ったなあと感じました。運動が苦手そうな生徒にも声掛けやアドバイスをしていたところなど感心させられたところでした。

- 先生はもちろんですが、生徒間でも「いい!」「おいしい!」「うまい!」などポジティブな声掛けが多く、雰囲気がとても良かったです。iPadを使ってゲームを撮影し、ゲーム後すぐそれを見ながら話し合いをしていましたが、ミーティングの内容や発表者なども記録する生徒がいて、役割分担がされていて、それぞれが活発に活動していて感心しました。
- 相手に教えるなど経験者が責任を持ちアドバイスを送り、それに静かに真剣に耳を傾ける姿勢をたくさん見ることができました。
- 生徒達が活発な意見交換を行っていた。グループによっては一人が中心になって進めていたり、それぞれが思ったことを意思表示したりと様々な活動が見られた。運動が苦手な生徒もいたようだがミスを責めることもなく励ましながら取り組んでいる態度はとても素晴らしかった。また、責められることがないため思いっきりプレーできていた。生徒の資質・能力の高さだけでなく、日ごろの先生方の指導の成果を感じる授業でした。

## (2) 本校の「SOSの出し方教育」に関するご意見をお書きください。

- 互いに尊重するという視点につながり、当事者とかかわろうとするものとして、非常に大切な教育の内容だと感じました。本校でも先生方に今回のメッセージを伝えていきます。
- 生徒が一日の大半を過ごす授業時間が生徒にとってそこにいてよいと実感できる授業になれることが、大切だと思いました。そういう意味において、普段の学級集団のベース作りが大切だと思いました。今回の授業を参観させて頂きましたが、エンカウンター等の取組の上に成り立っているのかな?と感じました。
- カリキュラムマネジメントの大切さを改めて感じました。学校全体で取り組むと大きな成果を生むと思います。ありがとうございました。
- 困り感のある生徒だけに注目するだけでなく、教室全体の雰囲気作りの大事さが重要だと感じました。
- 授業の中で身に付けさせる力としてはとても難しいことだなあと感じました。教師側が率先垂範・同僚支援の視点を持ち、うまく生徒に対して仕掛けをしていく指導力も求められていると感じます。おそらく新聞タワーや漢字ゲームなどエンカウンターなど実践してこられたことが、成果として現れていた本日の授業だったのではないかと思います。授業として指導と評価の一体化の観点から見ても、とても評価が難しい。
- 子ども達の感じ方や受け取り方が様々で、指導内容もしっかり計画していないと成果も出ないと思います。教師側が意識を変えて、授業やカリキュラムマネジメントに取り組む必要があると思います。まずはできるところから取り組んでいきたいです。
- 「SOSの出し方」なのですが雰囲気が良く認め合ったり発言が気軽にできていて、そもそもの悩みやSOSの軽減につながるのではと感じました。LHRや講演会を聞くことも有効だと思いますが、何よりも日ごろの授業、全ての教科で取り組み、積み重ねていく

ことの大切さも改めて感じさせて頂きました。

- グループで学習を行うことで、生徒の自己肯定感を高め、お互いの生徒をかけたがない個人として尊重し合うことがとても重要であることを実感しました。また、目標設定・共有、同僚支援、率先垂範の三つの最小要素を常に念頭に置いて、リーダーシップを高めつつ、SOSを出せるよう人材育成を図ることの大切さを痛感しました。
- 今回初めて教科指導での「SOSの出し方教育」を見て日ごろ、私たちも何気なく行う授業の中にもたくさんのリーダーシップ等の成長過程を見ることができると思いました。
- 生徒同士のコミュニケーション、教師と生徒のコミュニケーションがとても大切だと感じました。「SOSの出し方教育」自体が自分の苦しみや困り感を表現するだけでなく、周りが感じ取る力を身に付ける教育にもつながっているという良さが理解できました。
- 学校生活で大きな割合を占める授業を通してリーダーシップを身に付けるという取り組みは素晴らしいと思いました。
- 全教科、全領域、日常の教育活動全てにおいて取り組むことが必要な、取り組むことが可能なものだと理解できました。
- 授業の中で教科をつい見てしまうのですが、互いを否定しない様子がどのクラスでも見られました。
- 積み重ねが必要だと感じました。クラスがわかれても班が分かれても皆が声掛け合うには経験が大事だと考えました。
- 否定的な意見が出ないということがすごく良かったと感じました。とってもポジティブな意見交換、認め合える環境、意見が言いやすい環境を作れる授業にするため工夫する必要があると感じました。
- 今回初めて本研究の授業を参観させて頂きました。全教科、教育活動のあらゆる場面で「目標共有・言語化・率先垂範・同僚支援」という共通項目を設定し、学校全体で取り組む効果を感じることができました。ポジティブアプローチを通じて生徒が将来にわたって必要な力を育むことができると感じられました。有意義な機会をありがとうございました。
- はじめは「SOSの出し方」と「リーダーシップ」のつながりが漠然としていたのですが、授業を拝見して少し見えたような気がしました。困っている人を助ける（支援行動）だけでなく苦手なことに対して周囲が助けを求める（救援行動）力も育む、それが「リーダーシップ」に繋がっていくのかなと感じました。
- SOSを出すためにはその手前の風土づくりが大事なのかなと思いました。最近自分さ

え良ければとした風潮の中で、自分と他者のことに目を向け、自己肯定感、リーダーシップを育むことの有意義さを再確認しました。

- LHRだけでなく教科で横断的に取り組むことで、自分の強み、弱みを肯定的に捉える機会も増えるため良いと思いました。リーダーは一部の生徒がするという意識でしたが、济々豊高校が取り組まれているようなリーダーシップ教育で、全員ができないところをカバーしたり、意見交換する、役割を決めなくても率先できている生徒の姿を見て、しっかり授業の目標を達成するために班で協力する姿を見てすごいと感じました。今後の授業で活かしていけるように自校でも参考にしていければと思います。
- 新学習指導要領をふまえて、無理なく教科横断的に研究に取り組まれていると感じました。教務部との連携の仕方や、リフレクションの仕方など共有の方法などをなにか工夫されているのか気になりました。
- 生徒が「SOSの出し方教育」を権限のいらぬリーダーシップ教育をよく理解して授業主体的に取り組んでいる様子が分かりました。授業の中でのみならず生徒同士の日ごろの人間関係作りにも通じるのではないかと思いました。
- 全校でクラス、教科にわたって取り組みをなされていて、その分生徒も受け止めやすく、取り組み安いのだと思います。子ども達に先生方の本気が伝わっているように感じました。
- とても有意義な時間でした。SOS→リーダーシップは必要で、特定の生徒によらない、全ての生徒がリーダーシップをあらゆる場面においてとれる指導、支援をしていかねばならないと思いました。
- 授業のデザインシートは大変勉強になりました。私の授業の参考にさせていただきます。他者との関連性のなかで、権限のいらぬリーダーシップ、三つの最小要素を私も意識していきます。
- リーダーシップを採用されたことがとても的確でマッチしていると思いました。今後の研究の深まりを楽しみにしています。
- 共通の授業デザインシートがあることはとてもいいと思いました。また、それがおそらくできるだけシンプルになるように工夫されていていいと思いました。用語が日本語という所が浸透しやすさに大いに影響あると思います。とても参考になるシートをありがとうございました。
- 組織で動いていて研究を推進されているところ、教師側でも研修を通して理解を深め、課題を共有し、工夫していける所にうらやましく思うと同時にどの高校でもこの視点は大切に活かしていけることが大切ですし、理想だなと思いました。生徒一人一人を大切に、命を大切に、自分を大切にできれば他人も大切にできると感じます。これからの子ども達の人生が豊かになるためにも大切な教育だと思います。とても勉強になりました。

○SOSが出しやすい雰囲気作りがすすんでいると思いました。勉強になりました。

**(3) その他、お気づきの点等ございましたら、お書きください。**

○特にありませんが、地歴公民科の授業も見なかったです。

○先生方の熱意が色々なところで波及していくことを願います。そのためにも私たちにできることは何か……。考えて今後の教育活動の参考にさせて頂ければと思いました。ありがとうございました。

○今日の公開授業で学んだことを常に念頭におきながら毎時間の授業を丁寧に行っていくことが大切であることに改めて気付きました。本日はお忙しい中、大変勉強になる公開授業に参加させて頂き誠にありがとうございました。

○今回、目標設定・共有、同僚支援、率先垂範を重点に置き観ましたがどの生徒も話ができ授業が展開され、大変参考になりました。今後目標設定を的確に進めていきたいと思えます。

○もう1時間授業を見ることができたらよかったです。

○今回のことを機にまずは学ばせて頂きます。

○教科の数の多さが皆さんで取り組んでいる様子として伝わってきます。「これをしたら終わり」ではなく少しずつ工夫できたらというものは学校皆で取り組むことが大切だと思います。目標の設定を見失わないように努めたいと思えます。

○取り組みが広がっていくことに期待します。

○どの授業も生徒の顔が上がって、生き生きと臨んでいるなと感じました、これも日々のご指導の成果かと思えます。今後の取組みにも期待しています。

○同じ研究テーマを各教科で夫々の視点で取り組まれて興味深く見学させて頂きありがとうございました。きっと教師側の思いが生徒にも通じると思いました。

○授業を見せて頂いてありがとうございました。学ばせて頂いたことを持ち帰り、活かしたいと思えます。良い刺激を頂きました。

○私がずっと大切にしてきたもの、やりたかったことを今回の公開授業で改めて感じ、再認識できました。安心して、これからの授業でも続けていこうと思えます。ありがとうございました。